真田宝物館だより

六連銭

第55号
令和8年6月発行

特別展

「松代城 花の丸 ―真田家の御殿―」

会期：令和8年 6月27日（土）～12月14日（月）
［前期］6月27日（土）～9月14日（月）　［後期］9月16日（水）～12月14日（月）

曲大直小図巻（真田宝物館所蔵）
8代藩主・真田幸貫筆。花の丸御殿全体を描いたもので、当時の様子がよくわかる。
花の丸御殿には屋敷だけではなく、北と南に庭が設けられており、さまざまな樹木や花と共に、泉水（池）が配された美しい庭園であったことがうかがえる。

掲載内容

特別展「松代城　花の丸―真田家の御殿―」
真田家伝来の大名道具
活動報告
展示スケジュール
学芸レポート1「旧横田家住宅の畑で取り組むボランティア活動」
学芸レポート2「真田宝物館での職場体験」
次回展示「松代の雅楽」

長野市デジタルミュージアム
ながの好奇心の森

長野市デジタルミュージアム「ながの好奇心の森」は、真田宝物館をはじめとする長野市の文化財をデータベースで検索し、紹介文と共に高画質画像もご覧いただけます。

学芸レポート1

旧横田家住宅の畑で取り組むボランティア活動

旧横田家住宅の畑では、松代文化財ボランティアの会会員により植物の栽培がおこなわれています。会員自ら、種まきから刈り取りまでを行い、育った花や実、葉などをさまざまなワークショップに使用します。

6月1日におこなわれた藍の苗の植え付け作業では、強い日差しの中、参加された皆さんの賑やかで楽しい様子が見られました。今回植え付けた藍は、例年、大人気のワークショップ「藍の生葉染め体験」の材料に使うもので、今後の成長が待ち遠しい、と熱のこもった作業となりました。（小山）

ワークショップでの藍の刈り取りの様子（昨年）

ひと株ずつ苗を植え付け

学芸レポート2

真田宝物館での職場体験

真田宝物館では毎年長野市内の中学生の職場体験を受入れています。今年は3名の生徒さんが、主に学芸業務を体験しました。

館内を見学後、甲冑のレプリカ着用体験を行いました。つぎに松代文化財ボランティアの会の方たちが真田邸土蔵で行っているワークショップを体験しました。

甲冑の着用体験

下貼り文書の洗浄

午後からは、はじめに掛軸などの歴史資料の取り扱いについて学びました。さいごに真田邸の襖に使用されていた下張り文書の洗い作業を体験し、内容盛りだくさんの資料の展示や保存に関わる体験を行いました。（西澤）

次回展示「松代の雅楽」令和8年12月16日（水）～令和9年4月12日（月）

近代以降、松代では松代小学校教員・長岡助治郎を中心に松代周辺の有志らが活動した松代雅楽協会がありました。関連した資料は松代小学校に保管されていましたが、その後当館でお預かりしてきました。

この度、改めて資料の調査を行ったところ雅楽舞台で使われた装束や楽器などがあることが分かりました。そこで、本企画展では、近代の松代雅楽に関した資料をご紹介します。（河野）

ギャラリートーク　12月16日（水）、12月19日（土）
いずれも10：00～

真田宝物館
The Sanada Treasures Museum
（長野市　観光文化部　文化財課　松代文化施設等管理事務所）

〒381-1231　長野市松代町松代4-1　電話：026-278-2801
HP：https://www.sanadahoumotsukan.com

真田宝物館だより 六連銭55号
発行　真田宝物館 令和8年6月
印刷　株式会社 共和コーポレーション

特別展

「松代城 花の丸 ―真田家の御殿―」

会期：令和8年 6月27日（土）～12月14日（月）

［前期］6月27日（土）～9月14日（月）

［後期］9月16日（水）～12月14日（月）

江戸時代、松代藩真田家の居城・松代城の本丸御殿は、国許における生活と儀礼の場である藩主御殿として、また藩政務を行う藩庁としての機能がありました。しかし、城の北を流れる千曲川が氾濫するたび、本丸御殿も浸水被害を受けたため、六代藩主・真田幸弘の頃、城の南西に位置する花の丸に新しい御殿を建設します。これが花の丸御殿です。

花の丸御殿は数度の罹災（りさい）と再建をくりかえしますが、明治六年（一八七三）の焼失後、土地は払下げとなり現在は宅地となっています。

これまで、花の丸御殿は本丸御殿などと共に、その範囲や遺構について調査・研究がなされてきましたが、御殿の建物そのものについては現存していないこともあり、未だに解明されていないことが多くあります。

こうしたなか、近年、花の丸御殿に関する新出資料の発見や松代城の発掘調査等により花の丸について多くのことが分かってきました。そこで本特別展では、絵図や古文書などの歴史資料から、新事実も含め江戸時代の花の丸御殿をご紹介します。また、敷地内に設けられた庭園や茶室に関する資料もあわせて展示します。（米澤）

文琳の茶入（真田宝物館所蔵）

嘉永6年（1853）、花の丸御殿は出火により焼失してしまう。この茶入は箱蓋裏の記述によると、御殿焼失後、土中より掘り出されたもので、真田家の重宝のひとつ。

特別展 関連行事

ギャラリートーク

前期：6月27日（土）、7月1日（水）

後期：9月16日（水）、9月19日（土）

いずれも10:00～

参加費：無料（入館料のみ）

ワークショップ

和綴じ本をつくってみよう

日時：10月24日（土） 10:00～12:00

場所：真田宝物館内 わくわくルーム

※詳しい内容は真田宝物館HPをご確認ください。

花の丸御殿御普請図面（真田宝物館所蔵）

万延元年（1860）の記述があることから、嘉永6年（1853）に焼失後、再建された花の丸御殿の図面とわかる。御殿内の各部屋や畳数などが記されている。

真田宝物館 展示スケジュール

令和8年

松代城　花の丸 ―真田家の御殿―（前期）
6月27日（土）～9月14日（月）

松代城　花の丸 ―真田家の御殿―（後期）
9月16日（土）～12月14日（月）

松代の雅楽
12月16日（水）～令和9年4月12日（月）

令和9年

知れば知るほどおもしろい！

真田家伝来の大名道具

6月27日（水）～9月14日（月）展示

真田家の歴史 真田信幸 叙位口宣案

文禄3年（1594）、真田信之が「従五位下」をたまわったことを示す文書。豊臣信幸と書かれ、信之が豊臣姓を与えられていたこともわかる。（降幡）

大名道具Ⅱ 覗眼鏡（のぞきめがね）

遠近法を用いて描かれた泥絵などを下の台に置き、レンズを通してみると、箱内部の鏡の反射と錯覚により、絵が立体的に見えるようになる。ひきだしの中には、泥絵による風景画が多く伝来する。（河野）

大名道具Ⅰ 火事羽織

紹と呼ばれる透ける織物を地とし、金糸により表現した波に、鯉の滝登りを刺繍した美しいつくりとなっている。前には真田家の家紋のひとつである、結雁金を配する。（西澤）

活動報告

真田宝物館では、カメラマンによる所蔵資料の撮影と、そのアーカイブ化（記録資料化）を長らく続けています。撮影した資料写真は、図録や目録に使用するほか、順次、長野市デジタルミュージアム（長野市の文化財検索システム）「好奇心の森」への掲載・公開を進め、皆様にご覧いただき、活用できるようにしています。

資料の撮影は、一般的な風景や人物の写真とは少し異なり、その資料に何を語ってほしいのかを考え、現在の「資料そのもの」の姿を過不足なく表現するよう心がけています。そのため、こうした資料撮影に熟練したプロカメラマンとともに、角度や光と影、見え方を相談しながら時間をかけて丁寧に進めています。

当館所蔵資料の写真を見かけたら、その資料たちの姿から、さまざまなことを感じ取っていただけたら幸いです。（山中）

撮影の様子